

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和8年度病害虫発生予察技術情報第 13 号を発表したので送付します。

令和8年度病害虫発生予察技術情報第 13 号

麦類赤かび病の防除対策

令和8年3月に名護市の小麦ほ場において、麦類赤かび病の発生が確認されました。本病は、収量や品質の低下に加え、病原菌が人畜に有害なかび毒（デオキシニバレノール（以下、「DON」）やニバレノールなど）を産生します。食用麦では赤かび粒の混入限度が 0.0%以下と厳しく定められ、また、食品衛生法により DON 濃度が 1.0ppm を超えた場合は出荷不可能となるため、発生予防が極めて重要です。高品質な麦類生産とかび毒汚染防止に向けて、総合的な防除対策に取り組みましょう。

1 病徴及び発生生態

- (1) 本病は、フザリウム属菌による病害で、感染すると、出穂後の麦の穂(小穂)が黄褐色～白色に退色して枯死する他、多湿時には、病斑部や穎の隙間に赤色～桃色のかびが生じる(図1)。
- (2) 第一次伝染源は、土壌表面にある前作のイネ科作物残さ(麦類、トウモロコシ、イネ等)や周囲のイネ科雑草で、そこに形成された子のう殻から、子のう胞子が空中へ飛散し、風雨によって麦類の穂に付着する。子のう胞子飛散好適日は、最高気温が15℃以上かつ最低気温が10℃以上で、湿度80%以上または降雨直後(当日または翌日)である。発病穂の病斑上の分生子が降雨等により飛散することで、伝染は連続する(第二次伝染)。
- (3) 小麦や六条大麦では開花を始めた時期から開花期までの間に(図2)、閉花受粉性の二条大麦では蒴殻抽出時期(受粉を終えた蒴が押し出されてくる)に最も感染しやすくなる(図3)。

2 防除対策及び注意すべき事項

麦類赤かび病対策においては、必ず薬剤防除を行うと共に、以下の防除対策を行う。

- (1) 伝染源の除去・前作との組合せ
前作の作物残さ等をほ場から持出す、または鋤込みを行う。麦類の連作やトウモロコシを麦類の前作とすることを避ける。生育期間を通して、ほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を行う。
- (2) 土壌改良
麦類の生育に適切な土壌pH(pH6.0～6.5)になるよう、必要な土壌改良資材を施用する。
- (3) 防除時期
生育状況を常に把握し、麦種に応じて、必ず表の生育時期に1回目の薬剤防除を実施する。赤かび病の防除は、初回防除、追加防除のいずれも適期を逃さず行うことが重要であり、防除適期に降雨が続く場合であっても、短い晴れ間を利用するなどして、確実に防除を行う。
- (4) 薬剤選択
登録薬剤は別表を参照し、薬剤の使用時期及び使用回数には十分に注意する。耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- (5) 適期収穫
刈り遅れにより麦類が降雨に当たると、発芽粒やくされ粒等の発生による品質低下だけでなく、かび毒の産生を助長する。早刈りや降雨直後の収穫は未熟粒や異臭の発生、乾燥時間の増大の原因となる。

(6) 乾燥処理

収穫後は速やかに、乾燥調製施設に搬入し乾燥させる。乾燥まで一時貯留(一次貯留)する場合には、通風等により水分量を低下させる。



図1 小麦における赤かび病の症状 (農研機構提供)



図2 開花期の小麦 (農研機構提供)

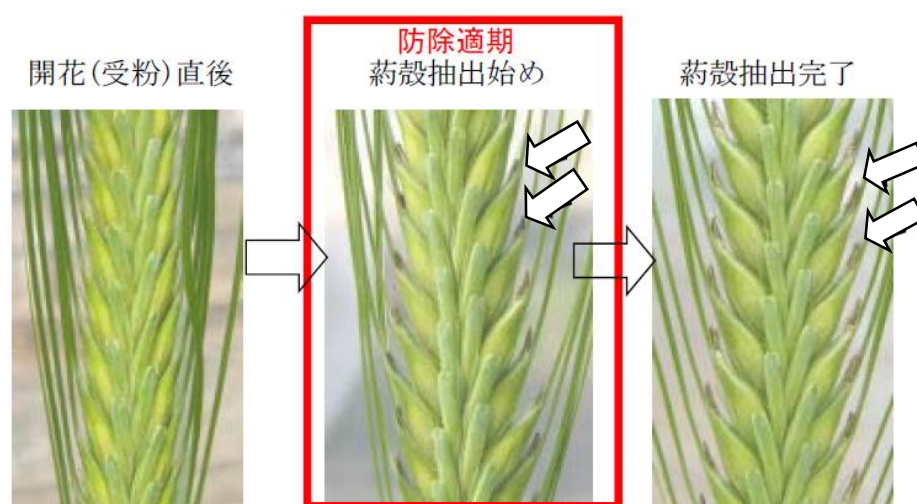


図3 二条大麦における葯殻抽出の様子 (農研機構提供) (図中白矢印:葯殻)

表 麦類赤かび病の防除適期

麦種	1 回目防除	2 回目防除
小麦・六条大麦	開花始め～開花期 ¹⁾	1回目の7～10 日後
二条大麦	葯殻抽出始め(穂揃い期 ²⁾ の10 日後ごろ)	

1) 開花期:1穂につき数花開花しているものが、全穂数の 40～50%に達した日

2) 穂揃い期:全茎の 80～90%が出穂した日

★詳しくは県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>



別表 麦類赤かび病対象薬剤(令和8年9月 15 日現在)

○小麦

FRAC コード	農薬名	希釈倍数	使用方法	散布分量	使用時期	使用回数	有効成分
1	トップジンM水和剤	1000～1500倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内) ※チオファネートメチルを含む農薬の使用回数	チオファネートメチル
	トップジンM水和剤	250倍	散布	25L/10a	収穫14日前まで		
	トップジンMゾル	1000～1500倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで		
	トップジンMゾル	8倍	無人航空機 による散布	0.8L/10a	収穫14日前まで		
1	ベンレート水和剤	2000～3000倍	散布	60～150L/10a	収穫7日前まで	2回以内 ※ベノミルを含む農薬の使用回数	ベノミル
3	チルト乳剤25	1000～2000倍	散布	60～150L/10a	収穫3日前まで	3回以内 ※プロピコナゾールを含む農薬の使用回数	プロピコナゾール
	チルト乳剤25	8倍	無人航空機 による散布	0.8L/10a	収穫7日前まで		
3	トリフミン水和剤	1000～2000倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 ※トリフルミゾールを含む農薬の使用回数	トリフルミゾール
11	ストロビーフロアブル	2000～3000倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 ※クレソキシムメチルを含む農薬の使用回数	クレソキシムメチル
	ストロビーフロアブル	500倍	散布	25L/10a	収穫14日前まで		
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～4000倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 ※ピリベンカルブを含む農薬の使用回数	ピリベンカルブ
M04	オーソサイド水和剤80	600～1000倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで	4回以内 ※キャプタンを含む農薬の使用回数	キャプタン

○大麦

FRAC コード	農薬名	希釈倍数	使用方法	散布分量	使用時期	使用回数	農薬の種類
1	トップジンM水和剤	1000～1500倍	散布	60～150L/10a	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内) ※チオファネートメチルを含む農薬の使用回数	チオファネートメチル
	トップジンMゾル	1500倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで		
	トップジンMゾル	8倍	無人航空機 による散布	0.8L/10a	収穫21日前まで		
3	チルト乳剤25	1000～2000倍	散布	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回 ※プロピコナゾールを含む農薬の使用回数	プロピコナゾール
3	チルト乳剤25	8倍	無人航空機 による散布	0.8L/10a	収穫21日前まで		
3	トリフミン水和剤	1000～2000倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 ※トリフルミゾールを含む農薬の使用回数	トリフルミゾール
11	ストロビーフロアブル	2000～3000倍	散布	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 ※クレソキシムメチルを含む農薬の使用回数	クレソキシムメチル

◎農薬の使用にあたっては、必ずラベルを確認してから使用しましょう。